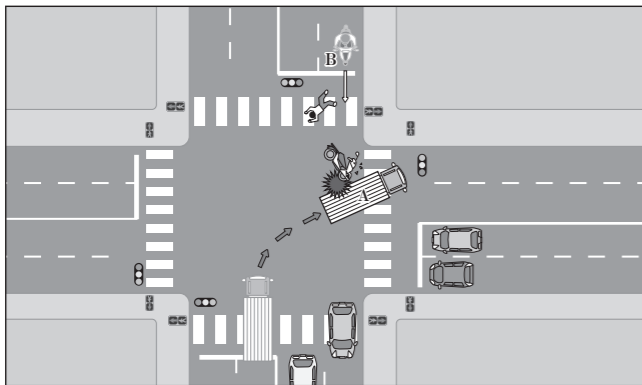


# 職場における交通安全指導

Part 108

## 交差点を右折する際、直進のバイクを驚愕転倒させて衝突



### 事故の概要

#### ●発生日時

日時：平成21年6月某日 午後1時頃  
天候：晴れ

#### ●道路状況

片側二車線の交差点

#### ●事故の当事者

運転者A（中型貨物車）：45歳、男性  
被害者B（自動二輪車）：25歳、男性

#### ●被害状況

A：左後部サイドバンパー曲損  
B：重傷（頭部挫傷、全身打撲）

### 事故状況

Aは神奈川県内の運送会社に勤務し、中型トラックの乗務経験が12年と経験豊富で、過去事故歴は、11年前に停車中の大型トラックに追突した物損事故1件のみで、ここ10年間は無事故の模範ドライバーであった。

この日は、県内の倉庫で食品類を積込み、関西方面へ配送のため、東名高速を利用し、予定時間通りインターチェンジを降りて、国道から主要地方道に入り、そのまま直進していた。

当該道路は、片側二車線の主要地方道で、昼過ぎのため交通量も少なく、信号は赤から青に変わった直後であり、Aは右折のため、第二車線を進行し交差点内で対向直進の乗用車を1台やり過ごし、停止していた。対向車線前方を確認すると約100メートル先に直進して来る二輪車を認めたが、かなり遠かったため、自車の右折が先に終わると判断し右折を開始し、間もなく交差点を曲がり終わると思った瞬間、「キキー、ガシャッ」という音の後に「ガツン」という左後部への衝撃音も聞こえた。『え、なんだ』と思いながらトラックを交差点外に停止させ、急いで降車して交差点に行くと、交差点内にバイクと交差点手前に男性1人が転倒しており、Aは、この状況をとっさに理解できなかった。

Aは、自分のトラック左後部のサイドバンパーを見ると曲損していたので、『Bが二輪車で直進中に、交差点右折を始めた自分のトラックを認め、急ブレーキを掛けバランスをくずして転倒し、Bは道路に投げ出され、二輪車は滑走して自車左後部サイドバンパーに衝突した』ものと判断した。Bは、救急車で救急救命センター病院に搬送されたが、道路に転倒しての頭部挫傷、全身打撲の重傷となった。

### 事故の原因

当日のAは体調も万全で特に心配事もなく、時間にも追われず余裕のある運転をしていたが、交差点内で右折のため停止して対向直進車1台をやり過ごした際、遠方に直進してくる二輪車Bを認めたが、かなり遠くであったため、「Bは、まだ

遠くにいるから大丈夫だろう」という安易な判断により、Bに急ブレーキを掛けさせ、転倒させた事故となった。

Bにとっては、自分は直進をしており「Aのトラックは右折を開始しないだろう」と思い込み減速せずに直進していたところ、Aが右折を開始してきたことに驚き、急ブレーキを掛けてバランスをくずし転倒して、重傷を負った。

## 安全指導

### 1. 交差点における右折車と直進車の事故

交差点の右折車対直進車、いわゆる右直事故は、多くの場合、右折側が「急ぎの心理」から「先に曲がれるだろう」という判断ミスまたは、前方の安全確認不足で曲がるサンキュー事故がほとんどです。今回の事故のように相手車両が遠方だからという安易な考えや、小さな二輪車の遠近感と速度の錯覚による判断ミスの場合もままあることから、道路交通法の右・左折時の方法にある徐行を遵守し、「注意を1点に集中させず、前方左右の安全確認を徹底する」ということを念頭に置き、安全を冷静に判断できるよう習慣づける必要があります。

### 2. 交差点安全進行義務違反

交差点を進行する車両が、信号無視や右左折方法違反、右左折合図車妨害など明らかな交通違反を除き、必ず守らなければならない義務が「交差点安全進行義務」で、交差点およびその付近で交通事故を起こした場合に、「交差点安全進行義務違反」が課せられます。

交差点およびその付近においては、次の3項目に特に注意する必要があります。

- ① 交差道路を通行する車両等
- ② 反対方向からくる右折車両等
- ③ 交差点またはその直近で道路を横断する歩行者

かつ、できる限り安全な速度（徐行と義務づけられている）と方法で進行しなければなりません。

### 3. 運転行動のサイクル

運転行動は、「認知・判断・操作」で成り立っているといわれます。まず、前方の状況を「認知」し、その状況に対し考えたり予測したりする。これが「判断」です。この「判断」に基づき「操作」する。この一連の運転行動が的確に行われていれば事故を起こす危険性は低いといえます。しかし、どこかでミスが生じると事故を起こす危険性が大きくなります。

一般的に認知ミスが74%、判断ミス18%、操作ミス8%となり、認知（見落とし）ミスによる事故が高い比率を占めています。今回の事故は判断ミスですが、最も危険なケースを予測した「かもしれない運転」を励行することにより、交差点事故の防止に繋がります。



### 4. 細心の注意で安全確認

今回の交通事故は、いくら気持ちに余裕があっても「距離があるから大丈夫」という安易に判断した初歩的ミスをしてしまい、取返しのつかない大事故に繋がってしまいました。

通常の場合は「3秒先の安全」を確認すれば、間に合いますが、今回のように相手が通常より速い速度の場合は、3秒では衝突してしまうということになります。

このような場合は、「安全・確実に右折するために、もっと余裕と細心の注意」をして、また注意すべきポイントが偏ることがないように広範囲に目を向け安全運転を行ってください。